

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	山口県萩市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実施計画	【計画の改善時期】 平成 30 年度	
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>萩市は、平成15年10月に「萩まちじゅう博物館構想」を策定し、萩市全体を屋根のない博物館ととらえ、萩にある建造物、町割り、自然、祭礼、産業、そして萩に住む人々も大切な萩のおたから（文化遺産）であり、このおたからを守り育てながら、誇りを持って次世代に伝えていく「萩まちじゅう博物館」という取組を平成16年6月から官民協働で開始した。</p> <p>本事業では、「おたから」の情報発信、人材育成、普及啓発、継承を目的とした各種事業を行うことにより、おたからは地域住民自らが守り、支え、後世に伝えるべきものであるという市民の認識を広げるとともに、おたからの活用による持続的な地域振興を目指す。</p>			
6 実施体制			
<p>萩市が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。主な担当課と役割は下記のとおり。</p> <p>【萩市の担当課と連携内容】</p> <p>まちじゅう博物館推進課：「萩まちじゅう博物館構想」に基づく指導等 文化財保護課：文化財の取扱等に関する指導等、都市計画課：景観に関する指導等 観光課：観光業務に関する連携、萩博物館：文化遺産に関する調査・指導等</p> <p>また、事業の実施については、次の団体が実施する。</p> <p>【事業主体の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会（会長 萩市長 藤道健二） ・構成団体（萩商工会議所、NPO萩まちじゅう博物館、NPO萩観光ガイド協会、NPO萩明倫学舎、萩市観光協会、萩市景観審議会、萩市都市計画審議会、萩ものしり修士博士の会、萩元気食の会、萩ユネスコ協会、萩市男女共同参画推進審議会、萩温泉旅館協同組合、萩まちじゅう博物館推進委員会各地区部会（堀内部会、浜崎部会、藍場川部会、旧松本村部会、笠山部会、土原部会、須佐部会、旭部会、福栄部会、川上部会、田万川部会、むつみ部会）、浜崎しつちよる会、大井ふる里愛好会、維新の里づくり協議会、土原歴史散策ぶらぶら通り委員会、萩往還佐々並どうしんてやろう会、萩市、萩博物館） 			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 29,415 千円	平成31年度申請額： 6,234 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>本事業の実施により、市民が萩市全域に面的に広がる文化遺産を再認識し、文化遺産の価値を改めて感じることができる。文化遺産を守り、育て、支えるとともに、次世代に誇りを持って引き継ぐ必要性を理解させることができる。また、文化遺産情報をインターネットで公開、全戸配布される市報への掲載、これらの素材を活用した地域交流イベントの開催により、今まで知られていなかった文化遺産情報を広く発信するとともに、市民相互の交流と地域づくりに繋げることができる。さらに、新たに作成する地域おたからマップを用いて市民自らが企画・運営するイベント等の開催や、地域固有の文化遺産を具体的に活用するためのワークショップの開催により、市民のまちづくり意識の高揚が図られる。</p> <p>これらの取組を進めることにより、各地域への来客数が増加し、平成27年10月に策定した萩市総合戦略に掲げた観光客数2,500千人（H31）を達成するための一助となることが期待できる。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	本事業で行った、おたからの再発見事業、地域交流イベント事業を地域住民の自主事業として継続的に実施する。		
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>萩市は、昭和47年の歴史的景観保存条例の制定を皮切りに、先駆的に歴史的景観保全の取組を進めてきた。</p> <p>平成20年、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律が施行され、早速萩市では歴史的風致維持向上計画の策定に着手し、平成21年1月に認定を受け、歴史的建造物等の保存・保全・活用を進めている。歴史文化基本構想については、地域の文化財を指定、未指定の区分を問わず総合的に保存・活用するための構想で、本市のまちづくりの基軸である萩まちじゅう博物館構想の推進に有利な支援事業も設定されていることから、策定に向けて庁内関係課と協議していきたい。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	萩市観光政策部まちじゅう博物館推進課（推進係）		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 1 :	萩市への観光客数 (年間)			関連事業:	①~③	
目標値 1 :	【現状値】 平成 26 年度 2,301 千人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 2,500 千人					
設定根拠 1 :	「萩市総合戦略」に記載の評価指標により、平成31年度までに2,500千人、以降、水準を維持					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
2,420 千人	2,378 千人	千人	千人	千人	千人	
60%	39%					

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	地域の文化遺産情報発信事業	実施団体：	萩まちじゅう博物館 文化遺産活用事業実行委員会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要：	情報発信に必要な基礎資料を整えるため、情報収集を行い、「おたからカルテ」を作成して、情報整理によりデータベースを構築、インターネット上で公開する。情報収集・整理したおたからについて、対象地域ごとにおたからの紹介やまち歩きができる「地域おたからマップ」を作成、配布する。					
評価指標区分：	・補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分）			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	各地域で作成した地域おたからマップやその内容が転載されたパンフレット等の増刷数（自主事業）					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 0 部 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 10,000 部					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
10,000 部	10,000 部	部	部	部	部	
100%	100%					
事業②：	地域の文化遺産普及啓発事業	実施団体：	萩まちじゅう博物館 文化遺産活用事業実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要：	地域の文化遺産を「萩のおたから」として認定し、広く周知するため、「文化遺産認定委員会」や「萩まちじゅう博物館おたから総会」を行い、リーフレットを作成する。文化遺産を活かした活動の普及啓発のため、地域住民が参加するワークショップや地域交流イベントを開催する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	地域住民が主体的に行う地域交流イベントやツアープログラム等の実施数					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 2 件 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 10 件					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
14 件	12 件	件	件	件	件	
150%	125%					
事業③：	地域の文化遺産活用モニターツアー事業	実施団体：	萩まちじゅう博物館 文化遺産活用事業実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要：	地域の文化遺産をめぐる着地型観光の確立のため、各地域別や各テーマ別のモニターツアーを実施し、観光客数の増加と交流人口の増加による地域振興を図る。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	観光施設の利用者数（年間延べ数）（松陰神社、萩博物館、木戸孝允旧宅、萩反射炉、長門峡、ゆとりパーク田万川、萩・むつみの恵、須佐ホルンフェルス、萩往還、大板山たたら製鉄遺跡）					
目標値：	【現状値】 平成 26 年度 952 千人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 1,030 千人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
1,079 千人	1,064 千人	千人	千人	千人	千人	
163%	144%					